

# 看護福祉学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

**問題** 次の文章は AERA dot. に連載されている「鴻上尚史のほがらか人生相談～息苦しい『世間』を楽に生きる処方箋」から一部抜粋し、改変したものです。ある高校生から投稿されてきた相談とそれに対する鴻上尚史氏の回答です。この文章を読み、以下の設問に答えなさい。

**問 1** 鴻上尚史氏のいう「情報を流通させる」とはどのようなことを意味するのか 50 字以内でまとめなさい。

**問 2** 今回の相談者は部活の部長（リーダー）ですが、部活に限らずあなた自身が描く理想のリーダー像を 800 字以内で述べなさい。

**【一輪車さん（17 歳 女性）からの相談】**

こんにちは、現在とある学校に通う高校 3 年生です。私もついに最高学年となり部活では部長、委員会などでも委員長を務めたり本格的に先頭に立ち学校を引っ張っていく、そんな立場になりました。ですがここ最近、自分はそういう人の上に立つような役職であったり、いざという時責任を負えるようなしっかりとした人間ではないと感じるようになりました。それを強く感じたのは部活の最中です。私の部活は 3 年生が私しかいないため私が部長として日々活動しています。唯一の 3 年生として後輩に競技のことも普段の礼儀なども教えています。普段は余裕を持って後輩に接することが出来るのですが、トレーニングなどで自分を追い込んでいる時や自分の限界に近い時、感情がたかぶってしまっている時などに、後輩に嫌味を言ってしまったり大声で文句を言ってしまったりと、自分の本性といいますか、最低な部分が出てしまいます。

目に余る私の行動は私の自己分析では「誰かに気を使ってほしいから可哀想な自分を演出するために嫌味や文句を言っている」のではないかと思います。自分でも最低な考えで最低な行動をとってしまっているというのは分かっています。だからこそこんな自分を変えたいと思っています。また自分は将来、人を助けられるような仕事に就きたいと考えています。その為にも私は変わらなければならないと思っています。どうしたら自分は変わるのでしょうか。どうぞよろしくお願いします。

**【鴻上さんの答え】**

(前略)

さて、一輪車さん。「どうしたら自分は変わるのでしょうか」と書いていますが、どんなふうになりたいですか？ 一輪車さんの考えるリーダーとはどういう人ですか？一輪車さんの言葉で言うと、「本格的に先頭に立ち学校を引っ張っていく」人で、「いざという時責任を負えるようなしっかりとした人間」ということですね。逆

に言うと、「自分を追い込んでいる時や自分の限界に近い時でも、感情が高ぶらず、嫌味を言わず、大声で文句を言わない人」ですね。

ふう。大変ですね。一輪車さんの言葉を書き写しているだけで、溜め息が出ました。リーダーは大変ですねえ。でもね、一輪車さん。僕の考えるリーダーは、一輪車さんのものとはちょっと違うのです。一輪車さんのリーダーのイメージは、「先頭に立ってぐいぐい引っ張る人」でしょう？僕の考えるリーダーのイメージは、「情報を流通させる人」なんです。

僕は22歳で劇団を旗揚げしました。劇団の主宰者であり演出家ですから、バリバリのリーダーです。先頭に立って、みんなをぐいぐい引っ張って、いろんなことをちゃんと決めようと思いました。でも、すぐに、行き詰まりました。例えば、毎日の稽古をどれぐらいしたらいいか、適切な稽古量はどれぐらいなのか、どの部分の稽古をしたらいいのか、決めなければいけないことがたくさんあって、ひいひい言うようになりました。特に、自分のことが大変で、劇団員に対して心を配れなくなると、どんな指示を出していいのか分からなくなりました。一輪車さんと同じですね。で、ある時、「ああ、明日、どこを稽古したらいいか分からない。どうしよう」と困り、思わず、「迷ってるんだけど、明日、このシーンを稽古したいっていう希望ある？」と聞いてみました。最初、みんなはキョトンとしました。演出家というものは、常に的確な指示を出す人で、迷いを見せる存在だとは思われてなかったからです。でも、俳優やスタッフは徐々に、「俺はこのシーンをやりたい」とか「私はこの部分をもう一度稽古したい」と言ってくれました。希望がたくさん出て、さあ、どうしようと思った時に、また「希望がたくさんなんだけど、明日の稽古時間は〇時間だから、全部は無理なんだよね」と言いました。すぐに、「じゃあ、僕はちょっとの稽古でもいいから」とか「私はじっくりやりたいの」とか、みんな、口々に言ってくれました。その言葉を聞いて、僕は明日の予定を決められました。一人で決めている時より、ずっと楽に的確な予定が作れたと思います。劇団員が、おおむね、満足したからです。僕は「なんだ。自分の頭だけじゃなくて、みんなの頭を使わせてもらえばいいんじゃないか。聞くだけで、ずいぶん、楽になるぞ」とホッとしました。それまでは、リーダーというものは、なんでも自分で全部考えて、自分で決めて、自分で責任を取らないといけないと思いついていたからです。

(中略)

「明日、このシーンを稽古したいっていう希望ある？」という僕の言葉は、演出家がフレンドリーだとか正直だとかという意味ではなく(もちろん、それも大切ですが)、「演出家が、明日の稽古のメニューを決められていない」という情報を組織に流通させたのです。もちろん、リーダーは責任を取る人です。みんなの意見を聞いても、最終責任はリーダー自身にあります。みんなが言っている通りに決めても、その責任はリーダーが取ります。それが、リーダーなのです。

自分で責任を取ることと、組織に情報を流通させて、メンバーに思考する雰囲気

作ること・メンバーの知恵を借りることは別です。組織というのは、うかうかすると、すぐに淀みます。情報が淀めば、組織が淀みます。組織が腐ってくる一番の原因は、情報が流通しないことです。一部の人間だけが情報を握って、焦って、心配して、苛立つのです。情報を知らされてない人は、どうしてそんなに焦っているのか分からないので、ノンキだったり無関心だったり勝手なことをします。それを見て、情報を持っている人は、ますます焦り、苛立ち、怒ります。

(中略)

さて、一輪車さん。部活で一輪車さんは、どんなリーダーですか？

肩の力を抜いて、下級生の頭を使わせてもらいながら、情報を流通させてみませんか？ 今、一輪車さんが目標としていること、一輪車さんが部活に必要なだと思っていること、一輪車さんが悩んでいること、をフランクにオープンにみんなと共有するのです。

それは素敵なリーダーだと思いますよ。

出典：「鴻上尚史のもっとほがらか人生相談 息苦しい「世間」を楽に生きる処方箋」 鴻上尚史  
朝日新聞出版に無断で転載することを禁じる。(承諾番号 21-2332)